

令和2年度～平成25年度の受賞者

【令和2年度】

令和2年度	国際居住年記念賞	ハイチの会
<p>【主な活動内容】</p> <p>当団体は1986（S61）年に設立され、NGOとしてハイチ共和国の貧しい子どもたちへの識字教育、生活指導、地域の人々の生活向上を目的として、農業支援、農園建設の活動を行っています。</p> <p>ハイチ共和国エンシュ市ボナビ村において、居住環境の改善に関する活動として学校給食支援、地域住民の生活自立支援に関する動として畜産育成農業指導、小規模融資制度を住民の希望により実施しています。</p> <p>「農業で今日の命を守り、教育で明日のハイチを育てる」活動を約40年に亘り続けてきた今、地域住民が自立して考え行動することを主題としています。十分な食糧を確保できているとは言えないものの循環型農業により年々家畜が増え、土が豊かになり、食料の生産性が向上し、農場経営が黒字になり、小規模融資を行えるようになっていきます。</p> <p>また農場の作物や利益の一部を学校の給食や運営に使えるようになり、自立に繋がっています。干ばつやハリケーンなどの自然災害で収穫に恵まれないことや家畜が増えることで餌や水の確保が難しくなる等常に課題はありますが、流れを止めることなく今後も地域住民の自立を促す活動を加速させていきたいと願っています。</p>		
<p>【団体の概要（受賞当時のものです）】</p> <p>代表 中野 瑛子</p> <p>所在地 愛知県名古屋市瑞穂区八勝通2-29-4</p>		

【令和元年度】

令和元年度	国際居住年記念賞	かずさ 特定非営利活動法人上総掘りをつたえる会
<p>【主な活動内容】</p> <p>千葉県君津地方で発案完成し、国の重要有形民俗文化財として登録されている、上総掘り^{かずさ}の智慧を後世に伝えるとともに、水不足に悩む東南アジアの人々のための国際交流・国際協力に役立てることを目的に 1981(S56)年、当時、袖ヶ浦町で町議会議員を務めていた山田吉彦氏が中心となって設立され、以来、永年に亘り、活動されてきています。</p> <p>フィリピン・バタンガス州の学校に、井戸掘り職人 2 名を派遣し現地の人々とともに井戸を掘ったのを最初に、以来 38 年間フィリピンやインドネシアの学校や集落の中心地に井戸建設を続けています。また、「技術の輸出ばかりでは意味がない」と 1990 (H2) 年には、フィリピンから 9 名の青年を招聘し、3 週間の研修を実施、その後もインドネシアへの技術指導、フィリピン・ナショナルハイスクールで井戸掘り技術指導等を行っています。</p> <p>井戸建設に関する事業はもとより、湧水地から学校まで水道設備を設けることにより、学習環境、衛生環境等居住環境全般の向上に向けて活躍されています。</p>		
<p>【団体の概要（受賞当時のものです）】</p> <p>代表 高橋 文代</p> <p>所在地 千葉県袖ヶ浦市今井 2 - 3 - 7</p>		

【平成30年度】

平成30年度	国際居住年記念賞	特定非営利活動法人 バングラデシュと手をつなぐ会
<p>【主な活動内容】 当団体は、1987(昭和62)年に留学生(当時)ラフマン氏と元代表の大木氏が中心となり、「バングラデシュに小学校をつくる会」を設立し、バングラデシュ・カラムディ村に小学校を建てるための募金活動を行ったのがはじまりである。 1989(平成元)年に「ジャパニ小学校」の完成とともに、同村の教育を支援し続けようと「バングラデシュと手をつなぐ会」が新たに発足された。(2004(平成16)年に特定非営利活動法人として認証された。) 同村のNGO「シオンダニ・シオンスタ」と協力して、教育支援では、「ジャパニ小学校」の建設とその後の運営支援、学校へ行けない子どものために奨学金制度の実施、就学に必要な費用を得るための支援として、仔牛の奨学金プロジェクトを実施し、「シオンダニ・スクール」(小・中・高校)の建設と運営など、そして医療支援では、妊婦健診や出産、一般診療を行う「母子保健センター」の建設と運営、ソーシャルワーカーの巡回健診、同村から遠い村にも拠点を置き、定期的に出張診療(サテライト・クリニック)を行う等医療設備の充実や緊急患者対応のための救急車の配備などを行っている。また、生活に必要な収入が得られるよう支援する、肉牛貸し出しプロジェクト、女性を対象にした足踏みミシンの職業訓練なども行っている。</p>		
<p>【団体の概要(受賞当時のものです)】 代表 ニノ坂 保喜 所在地 福岡市早良区西新5-4-20 ホームページURL https://tewotunagukai.com/</p>		

【平成29年度】

平成29年度	国際居住年記念賞	特定非営利活動法人 新潟国際ボランティアセンター
<p>【主な活動内容】 新潟国際ボランティアセンターは、日本国際ボランティアセンター(JVC)の現代表である谷山博史氏が新潟大学で講演したのを受けて、新潟の市民が集まってラオスにおける乳児死亡率を下げるための資金援助を目的とした愛の架け橋バザーを開催したことをきっかけとして1989(H元)年に組織としての活動を開始した。 翌1990(H2)年には任意団体となり、ベトナムでのスタディツアー事業を開始し、1996(H8)年からは小学校の建設を開始(現在まで20校建設)、1998(H10)年にはホーチミンにて元ストリートチルドレンが暮らせるオープンハウスを建築、障がい児が暮らす施設の生活支援事業、奨学金支援事業を開始した。 2014(H26)年からはベトナムのラムドン省マダグイ子どもセンターでは障がいを持った女兒達が暮らすための住居の建築を支援、ベトナムのロンアン省ではシェルターでの女兒たちの自立を目指した縫製技術習得を兼ねたフェアトレード事業を開始している。(1999(H11)年に特定非営利法人として認証された。) 活動は開発途上国のみならず、地元新潟において地球を知る講座を開催し、国際問題や社会問題を学び、愛の架け橋バザー&フェスタにおいて多くの人々の力を結集し、新潟と世界が繋がり、共に育ちあう関係づくりを目指して活動している。</p>		
<p>【団体の概要(受賞当時のものです)】 代表理事 金子 洋二 所在地 新潟市中央区栄所通2番町692-27 ホームページURL http://www.nvcniiigata.wixsite.com/nvcjapan</p>		

【平成28年度】

平成28年度	国際居住年記念賞	特定非営利活動法人 シャンティ山口
<p>【主な活動内容】</p> <p>1993(H5)年に発足したシャンティ山口は、タイ国内の中でも極めて困難な暮らしをしている山岳少数民族の現状に目を向け、不法入国者として居住している集落や強制定住を余儀なくされた村(ホイプム村)の状況調査を開始した。</p> <p>1995(H7)年から本格的な支援を開始し、民族の自立支援事業などの活動を行っている。自立支援事業においては、女性グループが行う伝統的な刺繍やパッチワークなどを使ったハンディクラフトの製作指導及び販売の支援、伝統文化を次世代の青年たちに継承していくための活動、高齢者福祉、保健衛生知識のワークショップ、環境保全などの実践を踏まえて民族の自立をめざす活動を継続している。</p> <p>教育支援事業では、子供たちが就学するための奨学金を支給するとともに子供たちが通学するために設立したシャンティ学生寮を運営している。また、地球環境保全事業では、トイレのない村落を対象にトイレの糞尿(資源)を活用したエコトイレシステムの普及開発を行い、処理の過程で発生したメタンガスは学校の給食の煮炊きに使用するなど有効利用されている。このトイレの普及開発に併せて、地域の保育園や住民を対象とした環境と生活・保健衛生セミナーを行っている。2013(H25)年度から遺伝子組み換えのトウモロコシ栽培で荒廃した農地を果樹園に転換する活動を続け、住民との協働・努力により、バンコクの出稼ぎUターンや成人の若者がこの地で農業後継者となり、世帯・人口が増加している。</p> <p>2016(H28)年度からは、新たにホイプム村から100km南西の困難な生活を余儀なくされている山岳のホイドウア村を対象に、これまで培った経験を通じて地球環境を重視した活動を開始している。</p>		
<p>【団体の概要(受賞当時のものです)】</p> <p>代表理事 角 直彦 所在地 周南市大字下上1754番地 ホームページURL http://www.shanti-yamaguchi.com/</p>		

【平成27年度】

平成27年度	国際居住年記念賞	特定非営利活動法人 Hope and Faith International
<p>【主な活動内容】</p> <p>Hope and Faith Internationalは、貧困など社会的援護を必要とする人々が希望と信頼をもって自立し、包み支え合う家族とコミュニティを実現できるように教育的、福祉的援助を行うことを目的として、ストリートチルドレンや働く子どもへの支援を行っています。1989年(平成元年)、代表である福井氏が現地スタッフと共に、フィリピン・セブ島のスコッター・エリア(スラム地区)を視察し、不衛生で小さな一室で生活する家族や学校へ行けない子どもたちの姿を見て、物資援助の働きや貧困家庭の教育費支援プログラムを開始したことに始まり、2008年(平成20年)NPO法人化されています。</p> <p>その後、教育費の支援だけでは貧困の解決、さらには貧困の世代連鎖を断ち切ることができないことに注目し、現地のNPOと協働しチルドレン・センターを設立し、親の教育に対する無理解や子ども自身のセルフイメージの低さ等でスラム地区から抜け出せない子どもたちに対し、実際に就労できるための技術を身につけさせる職業訓練を行い、貧困問題を解決することに向けた可能な限りの取り組みを行ってきました。そして子どものみならず、親に対する就労支援や、親業への理解を深めるセミナーなどを実施し、家庭や共同体に対する取り組みも行っています。2007年(平成19年)からは、貧困地域に住む自閉症、知的障害など障害を持った子供たちに対する支援も展開しています。同様の活動をネパール(カトマンズ、ソルクンブ)でも実施しています。</p> <p>これからは、現地の人々の手により自らの貧困問題は自らの取組みとする、という意識の下で、責任が現地に移譲されることに努め、また、都市部の貧困地域に集まる人々が後を絶たないため、村落地域でのチルドレン・センター活動を開始し、村落から都市部の貧困地域への移動の連鎖を断ち切る働きに取り組み始めています。</p> <p>今後も、その地域の必要に合わせて貧しい子どもたちの自立を促す現地の人々の働きそれ自体が自立的な働きとなるように協働し、支援していくことを目指しています。</p>		
<p>【団体の概要(受賞当時のものです)】</p> <p>代表 福井 誠 所在地 東京都世田谷区玉川4-10-20 ホームページURL http://internationalhf.net/</p>		

平成27年度	国際居住年奨励賞	沖縄スリランカ友好協会
<p>【主な活動内容】</p> <p>沖縄スリランカ友好協会は、2010年(平成22年)にスリランカと沖縄において異文化や国境を越え、互いに真の文化や伝統を尊重し、共通の社会的発展を共有し合うことを目的に設立されました。</p> <p>2012年(平成24年)、友好協会主催の視察でスリランカのバルンガラ村を訪問した時に村の住民から水道設備の整備の協力依頼があり、「スリランカ命の水プロジェクト」を立ち上げました。村民が行政に対して生活環境の改善に不可欠な水道の整備を度々申請してきましたが、実現されませんでした。現地のNGO、村の住民と協働で整備を行い、2015年(平成27年)に完成しました。この水道施設の完成とともに、自分の村を守るという住民参加型の共同体のモデルも出来上がりました。</p> <p>これらに要する資金は沖縄の学生等が参加して開催したチャリティコンサート、募金活動、チャリティマーケットなどの活動によるもので、試行錯誤しながら工夫して集められたものでした。</p> <p>完成後はプロジェクトの実施現場において、バルンガラ村でなぜ水道設備の整備が行われてこなかったのか、また村の人々の経済事情や生活はどのような状態であるのかを明らかとするための調査やワークショップを行うなど、水道設備が設置された後の子どもたちの将来に向けて、役立つ取り組みが行われています。</p>		
<p>【団体の概要(受賞当時のものです)】</p> <p>代表者 チャンドラール ディリーブ 所在地 那覇市字国場555 沖縄大学チャンドラール研究室内 ホームページURL</p>		

【平成26年度】

平成26年度	国際居住年記念賞	特定非営利活動法人 緑のサヘル
<p>【主な活動内容】 緑のサヘルは、砂漠の脅威にさらされているアフリカ・サヘル地域に住む人々を支援することを目的に1991年(平成3年)に有志によって設立され、以来、食糧や生活水の不足の解消、衛生や現金収入の向上による生活改善、土壌や植生の回復を図る環境の整備等を中心に、ブルキナファソ、チャド共和国、タンザニア連合共和国の3ヶ国を対象に活動し、2014年(平成26年)にNPOに移行しました。</p> <p>アフリカ・サヘル地域における砂漠化は、森林伐採や家畜の過剰放牧等現地の生活自体が大きな原因となっているという見地から、根本的にそこに暮らす人々の意識や生活を安定させ、地域住民が自らの手で環境を守り続けることが出来る状況を作り出すための支援を20余年にわたり継続しています。「木を植える」ことよりも「木を植えることが出来る生活づくり」を基本とし、誤った既成概念や誤解を取り除けるよう図るとともにより住民に溶け込みやすい状況づくりに努め、下記の生活基盤、環境への取り組みを行っています。</p> <ol style="list-style-type: none">①生活水の確保のため、ポンプ付き深井戸の設置。貯水タンクを設置し、手洗いやうがいの励行を促している。②労力の軽減に向けた取組みとして、改良カマドの配布・設置し、薪の使用料の抑制や女性の労働負担の軽減を図っている。③近代養蜂の導入による蜂蜜の採取・販売により女性を含む一般住民の収入向上支援、家畜の育成と販売による収入向上と女性の活動の活性化に向けた支援を行っている。④緑化支援事業として、熱風や砂埃を防ぐための学校庭への植林、生徒と保護者による植穴掘りと苗木の植栽、育苗の後管理のための指導を行っている。⑤荒廃地の回復に向けた事業として、降雨時に生じる水と表土の流出を防ぐ石堤の設置、堆肥の投入を行っている。⑥湖岸の植林事業として土砂の流入や氾濫によって崩落が進む湖岸への植林、これら植栽地の計画的な間引きや枝打ち等の管理、薪の伐り出しと販売による収入向上を図っている。 <p>これらの活動は、企画・計画作りの段階から住民及び現地NGOと共に行っており、平行して、取り組みが持続的なものにするため住民組織の強化等を図り、住民自身による活動の選択と継続が可能になることを目指しています。</p>		
<p>【団体の概要(受賞当時のものです)】 代表理事 岡本 敏樹 所在地 東京都千代田区神田紺屋町16NASビル301号 ホームページURL http://sahelgreen.org/</p>		

平成26年度	国際居住年奨励賞	NGO新潟アピの会
<p>【主な活動内容】</p> <p>NGO新潟アピの会は、1996年(平成8年)にスリランカの低所得者層の居住する地域における幼児、女性達や難民居住地に住む国内の移住民を支援することを目的として設立されました。アピとはスリランカの言葉で「私たち」を意味します。</p> <p>スリランカの農村部において、井戸・貯水槽の建設、農業指導、農機具やミシンの支給、小規模貸付事業等による村おこしの支援、そして幼稚園の建設、巡回医療、孤児院の運営に対する支援など教育環境の整備等下記の活動に取り組んでいます。</p> <p>①井戸等給水施設の建設 地域の実情にあったものとするため、地域住民との十分な話し合いのもと建設を進め、メンテナンスや管理は地域住民の手によって使い続けられている。</p> <p>②農村コミュニティの土台づくり 住民が生きる意欲を持つために、農業指導やマシン等の支給による職業指導、正規の銀行からの融資が受けられない住民向けの小規模貸付事業を行っている。小規模貸付事業の融資を受けて成功した結果、貯蓄高が増加し、村立銀行が設立され、パンやスパイス工場が建設されたことによって新たな雇用が生まれている。</p> <p>③教育環境整備事業 幼い子を持つ母親が安心して農業に従事できるよう、幼稚園建設事業に力を入れ、幼稚園は必ず井戸と菜園をセットとして建設している。また風雨をしのぐことの出来ない家庭に対し、住居を提供している。</p> <p>④予防巡回医療事業 住民の健康意識の向上のため、口腔保健の実施と意識の向上を促すことに取り組んでいる。</p> <p>⑤孤児院運営支援事業 スリランカでは内戦終結後、孤児院が相次いで閉鎖されており、また、開発によって消滅しつつある密林から行き場を無くした野生動物によって、宿舎や農園等が破壊されている。このため、これらの施設の修復や野生動物の侵入を防ぐフェンスを設置などの取り組みを行うこととしている。</p> <p>これらの活動に加えて、スリランカとの文化交流、学生中心のスタディツアーを行うなど国際協力への関心を高める取り組みを行っています。</p>		
<p>【団体の概要(受賞当時のものです)】</p> <p>代表 倉田 洋子 所在地 新潟市中央区学校町通2番町5308番 ホームページURL http://niigataapi.web.fc2.com/</p>		

【平成25年度】

平成25年度	国際居住年記念賞	特定非営利活動法人 カラ=西アフリカ農村自立協力会
<p>【主な活動内容】 カラ=西アフリカ農村自立協力会は現代表の村上 一枝氏の個人ボランティア活動を踏襲し、1993年(平成5年)に「砂漠化と疾病、貧困に苦しむ西アフリカの農村地域に於いて、住民と共に農村自立活動を行い、西アフリカの農村住民が健康で未来への希望が持てる自立的生活を主体的に構築することに協力する」ことを目的に発足した。 マリ共和国において、特に政府のサービスの行き届かない地域で20年にわたる支援を継続している。支援は単一事項によらず、日常生活に必要な事項を人々の意識に合わせて下記の支援を同時に進めている。 ①井戸の掘削、病気の予防、診療所・病院の建設、医療従事者の育成等、水資源の確保、居住環境の衛生状況の改善 ②小中学校・識字教室の建設、識字教師の育成等教育の普及 ③女性野菜園の造成、女性適正技術指導、女性センターの建設、小規模貸付事業、穀物等の保存庫の建設等女性の生活環境改善・所得の向上 ④植林地の造成、薪の消費量を減らすためのカマドの製造指導、村の自然保護を図るための森林パトロール隊の組織化等環境保全 これらの活動を通して、日常的な衣食住と教育・健康・収入の道を整え、日々生きるための環境改善を住民自らの力で築き上げるよう導くカラの理念に地域の人々が応え、村の人々の活動に成果が表れている。</p>		
<p>【団体の概要(受賞当時のものです)】 代表者 村上 一枝 所在地 東京都武蔵野市吉祥寺東町1-1-6-102 ホームページURL http://ongcara.org/</p>		
平成25年度	国際居住年奨励賞	静岡学生NGOあおい
<p>【主な活動内容】 静岡学生NGOあおいは、2005年(平成17年)に静岡県立大学公認の学生団体として発足した。「アジアの子どもたちが自らの意志と努力によって将来の可能性を広げ、より多くの人々が幸せを実現できる社会の構築に貢献する」という理念に基づいて、「児童買春による被害をなくす」「地方で国際協力に関わる若者を増やす」という目的のために活動している。 活動の内容は、たとえ子どもであっても家庭や家族のために働くべき、という考えが根強く残っているカンボジアにおいて、収入の低い農村部の子どもたちが教育を受けられないことや社会に出て働くことにより児童買春に巻き込まれる危険が増幅しているため、現地の中学生、家庭の親、村長・警察等に児童買春の知識と子どもの権利の知識をワークショップ、家庭訪問、啓発イベントなどを実施し、児童買春は問題であるという意識を植え付けている。 意識調査により、ワークショップを受けた人とそうでない人の差は明瞭に表れていることが判明している。これにより、支援は一時的なものではなく、カンボジアの人々が持つ可能性を開花し、自らが問題を解決していくという環境づくりに貢献している。 長期的な計画に基づく活動により、学生主体の団体特有の代替わりによる知識や理念への思いが目減りしていくという弱点を克服して活動規模は年々拡大している。また先輩や既卒者等との交流会や定期的なイベントの開催によって継続性のある運営や活動を行っており、今後の活動の幅の広がりが期待される。</p>		
<p>【団体の概要(受賞当時のものです)】 代表者 堀江 葵 所在地 静岡市駿河区谷田52-1 静岡県立大学内 ホームページURL http://ngo-aoijimdo.com/</p>		